

串間と世界。 言葉で人をつなぐ。

登録日本語教員 福島綾乃さん

串間にいながら世界と
つながることができる！

韓国、中国、カナダ、ウクライナ。
世界各地の学習者とオンラインで向き合い、日本語を
教えているのが市内在住の登録日本語教員・福島綾乃
さん。年齢も8歳から50代までと幅広く、一人ひとり
の夢や目標に寄り添いながら学びを支えています。



「登録日本語教員」とは？

2024年4月に創設された日本初の
日本語教師の国家資格です。外国人に
日本語を教えるための専門的な知識や技能を証明する
資格で、文部科学大臣が認定する「認定日本語教育機
関」で専任教員として働く際に必要となります。

◆前例の少ない国家資格に挑戦

京都府出身の福島さんは、地域おこし協力隊として本市
へ移住してから10年目。以前から日本語教育に興味を持っ
ていましたが、国家資格化を機に「もっと活動の場を広げたい」と挑戦を決意しました。

しかし、制度創設直後で周囲に経験者はおらず、学習は
手探りの状態。参考書やオンライン講座を活用しながら独
学で学び、平日は2～3時間、休日は5～6時間を勉強に
充てました。取得まで約1年半。仕事との両立で最も苦労
したのは時間管理だったといいます。

「何が足りないのかを分析し、計画どおりに実践することを
心掛けました」

積み重ねた努力が、難関試験合格へとつながりました。

「やっときたで」

合格通知を見た瞬間の率直な気持ちを、福島さんはそう
振り返ります。

◆世界へ広がる教室

現在の生徒は、日本文化に興味がある人や留学を目指す
人、日本企業で働くためにビジネス日本語を学ぶ人などさ
まざまです。オンラインだからこそ、串間にいながら世界
中の人とつながることができます。

授業で大切にしているのは、表情や声の抑揚です。

「画面越しだからこそ、感情が伝わるよう意識しています」

授業の最後に「えー、もう終わり？」と生徒から言われる
瞬間が、一番やりがいを感じる時だと笑顔を見せます。

COLUMN

合格翌日に訪れた“初仕事”

登録日本語教員の資格取得を喜んだ翌日、自宅前
で外国人と日本人による交通事故が発生しました。

言葉の壁によって意思疎通が難しい状況を見た福
島さんは、自ら通訳役として間に入りました。その結
果、双方のコミュニケーションは円滑に進み、現場に
いた人たちから感謝の言葉を掛けられたといいます。

「学んできたことが人の役に立ったと実感しました」

PROFILE



ふくしま あやの
福島 綾乃さん

京都府出身。プロダンサーや俳優業兼振付師、
貿易事務など多彩な職歴を持つ。地域おこし
協力隊として本市に移住。退任後は、有明小
学校、日南学園中学校、串間中学校で勤務し、
その後国家資格「登録日本語教員」を取得。現
在は串間から世界へ向けて日本語教育に取り
組んでいる。

串間と世界をつなぐ架け橋に

今後は、日本語教育や多文化共
生への理解を広げる活動にも取り組
みたいと考えています。法改正によ
り、2027年4月から外国人材の
受け入れ制度では日本語能力など
を評価する試験が導入される予定で
あり、地域での支援の重要性はさら
に高まります。

「必要とされた時に少数派の味方
でいられる存在になりたい」

福島さんにとって、日本語を教え
ることは「人の世界と自分の世界を
広げること」。言葉は単なる会話の
道具ではなく、人と人をつなぎ、新
しい世界への扉を開くものなのだとい

ます。
福島さんが世界に紹介したい串
間の魅力は都井岬です。
「めっちゃいいところなんです」
移住10年目。今では世界中の学
習者に日本語だけでなく、串間の魅
力も伝えていきます。

串間だからできない。地方だから
できない。そんな時代ではありませ
ん。

今日も福島さんはパソコンの画面
越しに世界と向き合います。言葉を
通して人と人をつなぎ、串間と世界を
つなぐ架け橋として。その挑戦は、
これからも続いていきます。

